

事務事業名	とちぎの元気な森づくり事業			担当	産業環境部 環境課 環境保全係			
政策名	D	自然と潤いがある安全快適なまちづくり			電話番号	0285-83-8125		
施策名	4	自然環境の保全と保護			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	元気な森づくり推進市町村交付金事業実施要領				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費		4. 環境衛生費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 20 年度～ 30 年度）		
事業概要	平成20年度から「とちぎの元気な森づくり県民税」が導入され、その原資を活用した交付金事業である里山林の整備と管理を市、地権者、地域住民との10年間の協定に基づき行っている。事業の実施は、地元地域住民により、2年の整備の後、管理を行うものである。本事業の実施期間は、「とちぎの元気な森づくり県民税」の課税期間となっている。							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 22年度実績 【継続整備】大久保地区 3.6ha（長田自治会） 東大島地区 10.6ha（東大島自治会） 【新規整備】東大島地区 3.0ha（東大島自治会） 伊勢崎地区 5.4ha（伊勢崎・高勢町自治会） 【管理】高田地区 4.1ha（高田山専修寺の森を守る会） 大久保地区 4.0ha（長田自治会・環境ハ-ナソフ会議）  23年度計画 【継続整備】東大島地区 7.5ha（東大島自治会） 伊勢崎地区 5.4ha（伊勢崎・高勢町自治会） 【新規整備】古山地区ほか8.0haを予定 【管理】高田地区ほか22.3ha	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア：整備計画面積</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>14</td> <td>22.6</td> <td>20.9</td> </tr> <tr> <td>イ：協定者数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>31</td> <td>16</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>ウ：管理面積</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4.1</td> <td>8.1</td> <td>22.3</td> </tr> <tr> <td>エ：地域団体等</td> <td>団体</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア：整備計画面積	ha			4	14	22.6	20.9	イ：協定者数	人			20	31	16	20	ウ：管理面積	ha				4.1	8.1	22.3	エ：地域団体等	団体			2	4	5	5	オ						
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																															
ア：整備計画面積	ha			4	14	22.6	20.9																																														
イ：協定者数	人			20	31	16	20																																														
ウ：管理面積	ha				4.1	8.1	22.3																																														
エ：地域団体等	団体			2	4	5	5																																														
オ																																																					
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 里山林の自然環境	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア：整備計画面積</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>14</td> <td>22.6</td> <td>20.9</td> </tr> <tr> <td>イ：管理面積</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4.1</td> <td>8.1</td> <td>22.3</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア：整備計画面積	ha			4	14	22.6	20.9	イ：管理面積	ha				4.1	8.1	22.3	ウ								エ								オ						
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																															
ア：整備計画面積	ha			4	14	22.6	20.9																																														
イ：管理面積	ha				4.1	8.1	22.3																																														
ウ																																																					
エ																																																					
オ																																																					
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 荒廃した里山林を明るく安全な森林空間に再生する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア：整備された里山林の面積</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> <td>4</td> <td>14</td> <td>22.6</td> <td>20.9</td> </tr> <tr> <td>イ：管理面積</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4.1</td> <td>8.1</td> <td>22.3</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア：整備された里山林の面積	ha			4	14	22.6	20.9	イ：管理面積	ha				4.1	8.1	22.3	ウ								エ								オ						
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																															
ア：整備された里山林の面積	ha			4	14	22.6	20.9																																														
イ：管理面積	ha				4.1	8.1	22.3																																														
ウ																																																					
エ																																																					
オ																																																					
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 自然環境保全・景観保全・自然とのふれあい機能を高める。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>19年度(実績)</th> <th>20年度(実績)</th> <th>21年度(実績)</th> <th>22年度(実績)</th> <th>23年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア：緑などの自然環境が良いと思う市民の割合</td> <td>%</td> <td>87.0</td> <td>88.7</td> <td>87.7</td> <td>92.6</td> <td>93.0</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	ア：緑などの自然環境が良いと思う市民の割合	%	87.0	88.7	87.7	92.6	93.0	イ							ウ							エ							オ										
名称	単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)																																															
ア：緑などの自然環境が良いと思う市民の割合	%	87.0	88.7	87.7	92.6	93.0																																															
イ																																																					
ウ																																																					
エ																																																					
オ																																																					

(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	2,071	6,167	9,053	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	0	0	4	4	
	事業費計(A)	千円	0	2,071	6,171	9,057	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	0	2	2	2	0
		延べ業務時間	時間	0	1,000	1,500	1,568	0
		人件費計(B)	千円	0	4,178	6,084	6,692	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	6,249	12,255	15,749	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成20年度に「とちぎの元気な森づくり県民税」が導入され、それを原資とした元気な森づくり推進市町村交付金事業の「明るく安全な里山林整備事業」を開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	生物多様性の重要性が近年クローズアップされ、多くの生き物を育む里山の自然環境を保全することが大切であると認識されてきている。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	地域住民からは、荒れていた林が整備され、ごみの不法投棄が減ったということや、共同で作業することから、地域の連帯感の醸成に役立っているとの声がある。また、管理費用については整備後4年間だけ交付されるが、協定期間である10年間にわたり交付するよう要望がある。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 荒廃した里山林を明るく安全な森に整備することは、自然環境や景観の保全を図り、自然とのふれあいの場を確保することにつながるから結びついている。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 森林保全を目的とした県の交付金事業であることから妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 荒廃した里山林の自然環境を再生するものであることから適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 県の交付金事業の目的に沿って適切に進めており、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 自然環境や景観の保全、自然とのふれあい機能が失われていく。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない 野生獣被害軽減のための里山林整備事業（農政課）
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない 事業目的が別であり、実施方法が異なるため、他事業との統合又は連携はできない。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の経費であり、削減余地はない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限度の人件費であり、削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 県の交付金事業で実施されており、公平、公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不十分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							